

令和6年度 事務事業評価シート（1）

〔 令和5年度事務事業 〕

一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	国際機関との連携事業			事業番号	008-065
担当部署名	文化観光	局	歴史遺産活用部 博物館	部	学芸課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本 計画 2025	施策 との 関連	有・無	戦略	1.堺の特色ある歴史文化 ～Legacy～		施策	(3) 類稀な堺の歴史文化資源を活かした戦略的な観光誘客の推進		
			有	取組の方向性		①堺の歴史文化資源を活用した滞在、消費拡大促進				
		寄与 する KPI	有・無	指標名	大仙公園エリアへの来訪者数					
			有	現状値	29.4万人(2019年度)			目標値	60.0万人(2025年度)	
	堺市SDGs 未来都市 計画	施策 との 関連	有・無	ゴール	ゴール(8)働きがいも経済成長も		ターゲット	8.9		
			有	取組	茶の湯や地域の祭り、文化財などの歴史文化の保全・魅力発信					
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—					
			無	現状値	—			目標値	—	

2	関連計画	—		
3	事業開始年度	平成 23 年度	点検対象年度	令和 7 年度
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	—		

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	堺市博物館					
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	市民及び本市への来訪者				対象数	単位
		—				—	—
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）との連携事業を通じ、多文化共生社会の実現に資することを目的とする。また、歴史的につながりの深いアジアをはじめとする国々との文化交流を促進し、地域の活性化に繋げることを目的とする。					
8	事業内容 (目的を達成するための手段)	IRCIや国立民族学博物館などの研究機関と連携し、企画展示、無形文化遺産理解セミナー、ワークショップを実施した。また、ユネスコ、日本の無形文化遺産に関する取組や本市の事業を紹介するパネル、リーフレットの作成を行った。 ○研究機関との連携 ・無形文化遺産シリーズ展 9月5日～10月1日「アジアの伝統的織物」（国立民族学博物館の特別協力） ・無形文化遺産セミナー・ワークショップ 9月23日「雅やかな韓国の伝統織物「韓山モシ」」 ・ワークショップ 9月30日「ミニ緞通を織ってみよう」 ・パネル展 11月7日～3月31日「コロナ禍を乗り越えたアジア太平洋地域の無形文化遺産」（IRCIと共催） ・無形文化遺産セミナー 12月17日「コロナ禍のお祭りを考える」（IRCIと共催） ○広報事業 ・上記事業にかかるリーフレット・チラシの作成および『無形文化遺産事業報告vol12』の刊行					
		※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など					
		※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載					
9	主な支出先（委託・補助金・負担金等）	委託事務の受注者					
10	公民連携・協働事業						

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位		実績		目標	目標 点検対象年度
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	無形文化遺産理解セミナー等の参加者数	人	目標値	90	200	250	300
			実績値	183	500		
			達成率	203%	250%		
当該指標を選定した理由		募集予定人数を目標値とした。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の対策で募集人員を大幅に削減している。					
目標値の設定根拠・算出方法		参加者実数					
12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位		実績		目標	
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	無形文化遺産展示・セミナー・ワークショップ等の開催回数	人	目標値	0	5	5	
			実績値	0	5		
			達成率	—	100%		
当該指標を選定した理由		無形文化遺産の価値を知ってもらうためには、魅力ある展示、セミナーやワークショップ等の開催が必須のため。（令和5年度に活動指標を変更した。）					
目標値の設定根拠・算出方法		IRCIとの協議による共催回数に加え、休日を中心とした日程で現状の職員数で実施可能な回数設定。					

令和6年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	国際機関との連携事業	事業番号	008-065
-------	------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）

事業費	項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度		令和6年度
		決算	決算	当初予算	決算	当初予算
13	事業費（a）	1,829	627	2,070	1,648	1,279
財源	国支出金					0
	府支出金					0
	市債					0
	その他（ ）					0
	受益者負担金(使用料、手数料等)					0
	一般財源	1,829	627	2,070	1,648	1,279
14	人件費（b）	5,030	5,080	5,040	5,040	4,940
15	年間経費（c）=（a）+（b）	6,859	5,707	7,110	6,688	6,219

事業費の内訳

（単位：千円）

16	事業費内訳	項 目	年度		事業費	うち 一般財源	項 目	年度		事業費	うち 一般財源
		謝礼金	R5	決算	226	226	通信運搬費	R5	決算	44	44
			R6	予算	150	150		R6	予算	81	81
		費用弁償	R5	決算	25	25	筆耕翻訳料等	R5	決算	131	131
			R6	予算	104	104		R6	予算	70	70
		普通旅費	R5	決算	7	7	展示品運搬展示業務	R5	決算	390	390
			R6	予算	79	79		R6	予算	0	0
		消耗品費	R5	決算	300	300	展示パネル等作製業務	R5	決算	337	337
			R6	予算	300	300		R6	予算	200	200
		印刷製本費等	R5	決算	188	188	その他（保険料、使用料及び賃借料）	R5	決算	0	0
R6	予算		279	279	R6	予算		16	16		

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

区分	単位	令和4年度	令和5年度
		183	500
①	無形文化遺産理解セミナー等の参加者数	人	
②	上記①にかかる年間経費	千円	1,274
③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	6,962
備考（算出についての説明等）		経費（人件費：正職0.1、非常勤0.1）	

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	堺市博物館では、令和5年度に無形文化遺産に関連したセミナー2回（うち1回はIRCIとの共催）・ワークショップ3回を開催した。加えて、新型コロナウイルス感染症拡大により中止していた「堺緞通実演」を復活させ4日間で340名の観覧者に実演をご覧いただくことができたため、事業への参加者数が大幅に増加した。「堺緞通実演」の開催により謝礼金の支出額が増加したが、参加者数が増加したことにより、単位当たりの経費は低下した。効率的に、無形文化遺産への理解の促進を進めることができた。
----	--

KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19	無形文化遺産を展示やセミナー、ワークショップで取り上げたことで、博物館の展示とは違った角度から堺の歴史・文化や伝統産業の紹介が可能になり、博物館の来館者増や堺の魅力発信に繋がった。常設展示で世界文化遺産の百舌鳥・古市古墳群を取り上げることに加え、世界各地の無形文化遺産も積極的に取り上げたことで、堺市博物館の観覧者数が増加に繋がり、大仙公園エリアへの来訪者数の増加に貢献したと考える。
----	--